

2010 年度 (平成 22 年度) 学校評価自己評価表

最終更新日	2011年(平成23年)3月4日
-------	------------------

校番 33	福山市立 柳津小 学校
-------	-------------

1 学校教育目標

進んで学び、豊かな心でたくましく生きる子どもの育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命 (ミッション)

豊かな学びから自己実現をめざす子どもを育成する学校

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像 (ビジョン)

- 基礎学力を身に付け、自分の考えを表現することができる子どもを育成する学校
- 思いやりの言動ができ、友だちと力を合わせて活動しともに伸びる子どもを育てる学校
- 授業を通して子どもに力をつけるために、常に授業をふり返り授業改善をおこなう学校
- 情報を発信し開かれた学校づくりをすすめ、保護者や地域から信頼される学校

3 自校の現状分析

- 昨年度の全国学力・学習状況調査では、国語A・B、算数A・Bのいずれも全国平均を上回り、県の基礎基本定着状況調査でも、国語と算数が県平均を上回った。領域の分析から読解力、作文力と、数量関係に課題があり、段落相互の関係を読み取ることや文章構成を考えて書くこと、数量の規則性を捉えるなどの学年に応じた具体的な授業改善を進めていく必要がある。また、表現力などの思いを伝え合うことが苦手であるという課題から、集団解決の場を設け、表現力と思考力を育てる必要がある。
- 縦割り掃除や集団遊びなどから異年齢での活動を通して、高学年としての自覚や責任感が育ってきている。また、低学年も協力して楽しく活動しようとする意識が育ってきている。学級活動と児童会活動を関連付けた活動を仕組むなど、さらに、仲間づくりに取り組む必要がある。
- 業間マラソンや青空体育を継続したことや、外遊びの奨励により運動することへの抵抗感がなくなってきた。新体力テストの結果から、半数をこえる領域で県平均を上回ったが、県平均以下の領域を克服し、運動を志向する姿勢を多くの児童に持たせる取組みが必要である。
- 算数的活動を取り入れた問題解決型の授業を通して、集団思考の場で、思考力や表現力の育成に取り組んできた。授業場面で、互いの考えを伝えあい、認め合うように授業改善に取り組む必要がある。また、算数科に限らず、さらに全教科・領域においても、思考力・表現力の伸長を図ることのできる指導と評価に取り組む必要がある。

4 研究主題

(1) 研究主題

思考力・表現力を高める指導と評価の工夫
～ 伝えあい、認め合う授業の創造 ～

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市	教育研究支援事業(算数科)	2008年度(平成20年度) ～2010年度(平成22年度)

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
・授業改善に取り組み、伝え合い、認め合う中で、思考力・表現力の育成に取り組む	・発達段階をふまえた表現力を身につけさせ、伝えあい・認め合う活動を通して、定着と活用を図る。 ・集団解決場面において、伝えあい・認め合う活動を促す発問や、算数的な活動を仕組むことで思考力、表現力の育成を図る。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点目標	年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	(最終)評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終)指標評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
確かな学力	3	国語・算数科の単元末テストの正答率を80%以上にする		継続	国語, 算数の学力定着達成率を向上させる	A	△国語, 算数の単元末テストの通過率を80%以上にする。 ◇「宿題やりきり週間」を実施し, 家庭学習の目標時間を越える児童を90%以上にする。 「宿題やりきり週間」(年間4回)	a	□単元末テスト通過率 国語82%算数84% □家庭学習達成率93%(やりきり週間5回実施)○家庭学習の習慣化が図られてきた。 ◎今後も, 家庭学習の定着に向けた取り組みを継続する。授業での個別指導の充実, 家庭との連携強化により, 家庭学習の定着を確実に図る。習慣化に向け, 評価を大切に行う。
							◇「授業改善シート」の確実な実践を進め, 読み取り・思考(国語, 算数)での通過率を80%以上にする。	a	□授業場面で集団解決の場を設けた割合: 8割。○伝え合いと集団解決の場を設けることにより思考力の育成が図られた。 □テスト通過率平均: 読み取り85%, 思考81%
豊かな心	2	自分の考えを表現できる児童を80%以上にする	★	見直し	児童相互が, かかわり合う中で, 伝え合う力を育てる	A	▽言語技術の指導を年間を通じて20時間以上確保する。 △集団解決の場で, 発表する児童を70%以上にする。	b	□授業時数100% 発表する児童80%以上○言語技術指導を教育課程に定着させ, 児童相互がかかわりの場で活用するように今後も継続する。◎発表を支えるために, 個人解決の場の充実, 書く指導の充実を図る。加えて言語技術の獲得, メモの取り方など, 考えをまとめる技能の習得を図ることで意欲的に発表させる。
	3	友だちと活動することが好きな児童を80%以上とする		継続	児童相互の関わり合いを通して, 自ら考え, 行動する力を育成する。	B	▽あいさつ運動に, 児童会, 保護者見守り, 地域ボランティアと一緒に取り組む。 △明るく, 気持ちを込めてあいさつのできる児童を90%以上にする。	a	□児童会によるあいさつ運動週1回実施。児童自己評価90% 保護者評価82%, 地域評価95%。児童への評価も高くなってきたため, 児童も励まされる形ができてきた。 ○児童会活動の充実と自主性を育てる姿勢を継続する。 ◎「自分から」「大きな声で」「目を見てあいさつをする」を掲げ, 集団登校, 集団下校の際に指導を継続して行う。児童集会では, 児童会があいさつ, 名札, 服装を整えるなどのきまりを評価する。
健やかな体	3	運動することが好きな児童を80%以上とする		継続	短期間の目標設定を行い, 計画的に体力の向上をはかる。	B	▽柔軟体操やボール運動を取り入れた授業を展開し, 新体力テストの結果を全国平均以上にする。	a	△体験活動を通して, 地域での活動が好きな児童の割合を80%以上にする。
								b	▽平均を上回る項目83%(チャレンジ後の達成率) ○平均を下回った4領域(柔軟性, 敏捷性)を克服する方法を, 研修等で学び, 授業や青空体育(朝の運動)でその克服に取り組み, 12月に再挑戦した。運動が好きな児童も72%から83%へと増え, 運動することを好んできている。 ◎外遊びの促進を図るために, 体育の授業だけでなく, 児童会活動の場も利用するなど, 積極的に集団あそびを奨励する。

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
力量 ある 教職 員	3	教育推進計画に そった取組み を100%達成す る。		継続	研究テーマである思考 力・表現力を育成する授 業研究・研修を進める。	A	▽指導過程に自力解決、集団解決の場を設定し、 自分の考えを表現させることを軸に、授業研究 を全職員が行い、授業評価表による授業評価を 年2回以上実施する。	a	□達成率100% ○授業実施2回以上達成。「集団解決の場を設ける」という授業改 善は、その場を設定するまでの授業づくりが大切であることと、 個々の表現力の育成を見直す必要があることを示した。 ○研究テーマに迫るために、指導力の向上を図る研修と学習規律 など指導の徹底を図る研修の両面から授業研究を進める。 ◎授業改善、言語活動の充実、言語技術の獲得といった研究・実 践を継続する。来年度の教育課程の編成において、児童の表現力 が活かされ、発揮できるように学校行事(児童集会、学習発表会 等)のねらいや形態等を検討する。
市 民 か ら 信 頼 さ れ る 学 校	2	学校の取組み に対する保護者 の肯定的評価を 90%以上にする	★	継続	学校の情報を定期的に発 信する。	A	▽学校だよりや学級通信で、学校評価自己評価 表の成果や、改善策に関連した内容を年間2回 以上発行した教職員を90%以上にする。	a	□達成率100% (保護者の満足度92%) ○学校や学級での取組みを紹介するだよりを、全学級発行した。 ◎結果でなく、経過やねらいをはっきりと打ち出すだよりの作成 に今後も取り組む。
				新規	家庭、地域の連携により 特色ある教育活動を展開 する	A	▽学校の教育活動を、地域に公開する(年3回 以上)とともに、地域人材を活用した授業を各 学年1回以上実施する。	a	□地域公開の達成率100%、地域人材の活用100% ○地域公開(参観日、研究公開)に対する保護者の満足度91% 地域の満足度98%と学校の教育活動の公開に関して肯定的評価 であった。 ◎本年度の地域人材活用の改善点を加えた「地域ファイル(学年 別)」を継続して利用する。地域から見える実践と地域を巻き込ん での実践を、学年の系統性、地域行事、季節等を考慮して、継続 して行うよう随時シラバスの検討を行う。
							△児童、保護者による学校教育満足度を、80% 以上とする。	a	□児童満足度82%保護者満足度91% 参観日での評価 ○学校の教育活動に対する肯定的評価は、その理由として①児童 の健やかな成長②情報発信(学校のことがわかる)③懇談(保護 者相互で話ができる)であった。保護者が主体となる懇談会や保 護者の参画意識や参加意識を高めるような取組みが必要。 ◎懇談会の充実、保護者参加の学校行事の充実を図る。「親の教育 フォーラム(ワークショップ)」「校長のホームルーム」は継続し て開催する。